

【中学生の部】審査員賞

『星の王子さま』（アントワーヌ・ド・サン＝テグジュペリ／著 河野 万里子／訳）

青森市立東中学校 3年 和田 るい

私がおすすめしたい一冊は、「星の王子さま」です。この物語は、あるところに不時着したパイロットが一人の王子と出会い、その王子の話を書くというお話です。私が一番印象に残ったところは、「本当に大切なものは目に見えない」という王子さまの発言です。このフレーズを一回聞いただけではあまりピンとこないと思うけれど、この本を実際に読んで考えてみると、なんとなく分かってくるような気がします。私も目に見えるものばかりにこだわって疲れてしまうことがあるけれど、この物語は、目に見えないものの価値はどれほど大きいものなのかを教えてくれて、少し気持ちが楽になったような気がしました。だから、みんなにも読んでほしいです。

『武蔵野・牛肉と馬鈴薯』（国木田 独歩／著）

三沢市立第一中学校 3年 四木 碧

中学三年生になった今。自身の将来について考えなければいけない時期。なりたい将来とは、つまり理想です。しかし、そもそも理想とは一体どんなものなのでしょう。私は、「牛肉と馬鈴薯」を読むまでそんなことは考えたこともありませんでした。この作品内では現実をビフテキに、理想を馬鈴薯に例えて登場人物たちが理想について意見を述べあっています。私は、最初に述べられていた意見が心に残りました。「ビフテキにイモはつき物、しかし、イモばかりじゃ閉口する。」これがその意見です。他にも、それぞれの主義者によって様々な意見が交わされています。なかなか聞けない理想についての話。この機会に読んでみてはいかがでしょうか。

『この恋は世界でいちばん美しい雨』（宇山 佳佑／著）

むつ市立田名部中学校 3年 坂本 愛菜

雨を嫌いな人はたくさんいるだろう。私もそうだった。でも、この本を読んで少しだけ「雨も素敵だな」と思えるようになった。

ある雨の日、カフェで働く日菜は、駆け出しの建築家の誠と恋に落ちる。しかし、ある雨の日2人は事故に遭う。目を覚ました彼らは、「2人合わせて20年の余命」を授かる。

恋人や好きな相手との関係に悩んでいる人、家族や友達とあまり上手くいっていない人には、特に読んでほしい。

人生には、雨の日も晴れの日もある。でも、雨の日はいつもより、少しだけ相手のことを労っていないだろうか。「気をつけて。」「ありがとう。」雨の日に交わされる、そんな言葉を大切にしたい。